

- 各種研修事業等の報告
- 匠・DNA展の報告
- 見学対応の報告
- 木材学会賞受賞の報告

岐阜県生活技術研究所は
快適な生活空間の創出と地域産業振興のために
新材料・新製品の研究と技術支援を行っています

各種研修事業等の報告

○研究成果発表会・講演会

9月16日に、生活技術研究所における令和6年度の研究課題の成果発表を行いました。

未活用広葉樹材・地域材活用に向けた技術開発や、デジタル時代におけるクッション触感の可視化などの研究成果について報告しました。

ブナの曲げ木においては、曲げ作業後の形状固定のための乾燥温度は85℃もしくは105℃がのぞましく、またその後養生過程において含水率7～8%と調湿された後は、塗装などにて含水率変化を抑制することが望ましいことを報告いたしました。

また、森林総合研究所の杉山真樹氏より「オフィス・店舗等の非住宅分野への内装木質化の動向とその効果について」と題して、オフィス等の木質内装が従業員へ与えるリラックス効果など多様な影響についてのご講演いただきました。

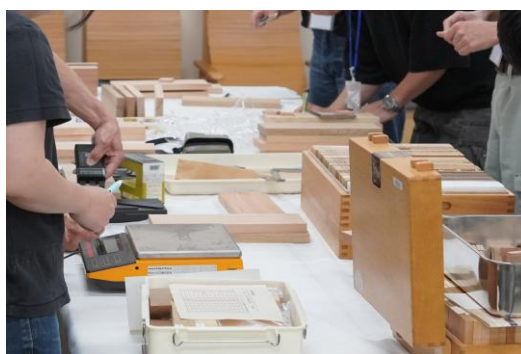
本年度は22名のご参加をいただきました。ご来場ありがとうございました。



○専門技術研修

8月の二日間において、専門技術研修「木材加工基礎」を開講いたしました。今回は12名のご参加をいただきました。

「木材の基本特性」について、木材の物理的性質や、乾燥・接着特性に関する講義を行いました。また、「家具の人間工学」について、心地よさや体への負担の視点から、実習も交えた家具設計に生かせる講義を行いました。



○フォローアップ講習「かぶれにくい漆」

11月の二日間に、岐阜県職業能力開発協会および岐阜県木工連合会と共同で、1級塗装技能士を対象に「かぶれにくい漆を使った塗装講習会」を実施しました。

かぶれにくい漆とはタンパク質を添加して事前にウルシオールと結合させておくことで、皮膚にふれても反応しにくくされている漆です。

今回は、木工業や建築塗装関係者が塗装方法について受講されました。



匠・DNA展の報告

10月に、飛騨・世界生活文化センターにおいて匠・DNA展を開催しました。この展示会は、岐阜県木工デザイン協会・飛騨木工連合会と共同で開催しており、協会に所属する企業の技術者が木工作品を出品します。今年のテーマ「伝統を生かす」に対して作品を発表する展示会で、優秀な作品にはそれぞれ一席～三席、新人賞、入選の各賞が贈られます。

今年は22作品の出展がありました。そのうち半数が入社5年以内の若手技術者の作品であり、次世代の木工職人の方々の意欲・熱量を感じられました。

今年の一席には、飛騨産業株式会社の馬場潤一さんの作品「詫び茶卓」が選ばれました。本作品は、日本古来の美意識としての不完全なものに美しさを見出すという視点に着目し、欠点と捉えられやすい木の不均一さこそが映えるよう設計されたサイドテーブルであり、全的なバランスの良さ、組み立て式であるなどの実用性への配慮や、伝統的な要素を残しながら現代の多様な空間にも馴染むデザインとなっている点が評価されました。

全体的に、意匠性にこだわった作品が多く、完成度が高い作品が見られました。一方、座り心地や使い勝手など、実用性の部分で改善の余地が見られる作品もありました。使う人の観点を持ったデザインがなされると、さらにより良い作品となるものと思われれます。



一席



審査会



講評会

見学対応の報告 | 研究所の見学、研修等随時対応しております

9月26日に、木工芸術スクールの生徒21名が当所を訪問されました。当所での技術支援業務や研究課題について紹介したのちに、3Dスキャナや椅子の強度試験機などの当所施設を見学いただきました。また、体形に合った椅子の座り心地や、木材の強度試験の体験も行っていました。



木材学会賞受賞の報告

令和7年10月16日に、静岡大学において「日本木材学会中部支部大会」が開催されました。その席上において、当所職員であります今西祐志専門研究員へ「2025年度日本木材学会中部支部地域功労賞」が授与されました。当所における「温湿度環境下での木材・木質材料の変形挙動に関する研究と家具・建具製造業への技術支援」の業績を対象に選考いただきました。